

再評価結果（平成31年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・技術課

担当課長名：東川 直正

事業名	一般国道483号 <small>とよおか</small> 豊岡道路	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 近畿地方整備局	
起終点	自：兵庫県豊岡市戸牧 至：兵庫県豊岡市上佐野	延長	2.0km			
事業概要	<p>北近畿豊岡自動車道は、豊岡市から丹波市に至る延長約70kmの高規格幹線道路であり、兵庫県北部の但馬地域と丹波地域の連携を支援するとともに、舞鶴若狭自動車道等を介して京阪神都市圏と直結することで、地域の活性化を支援する自動車専用道路である。</p> <p>豊岡道路は、交通混雑の緩和、交通安全の確保、災害時等の交通確保、第3次救急医療機関へのアクセス向上を目的としている道路である。</p>					
H28年度事業化	H27年度都市計画決定 (H-年度変更)	H29年度用地着手	H30年度工事着手予定			
全体事業費	130億円	事業進捗率 (平成30年3月末時点)	約8%	供用済延長	—km	
計画交通量	13,100台/日					
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体) 1.2 (2.2) (残事業) 2.7 (3.0)	総費用 (残事業)/(事業全体) 268/610億円 事業費：240/582億円 維持管理費：28/28億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 711/711億円 走行時間短縮便益：576/576億円 走行経費減少便益：103/103億円 交通事故減少便益：32/32億円	基準年	平成30年	
感度分析の結果	<p>【事業全体】交通量：B/C=1.1~1.4(交通量 ±10%) 事業費：B/C=1.1~1.3(事業費 ±10%) 事業期間：B/C=1.1~1.2(事業期間±20%)</p> <p>【残事業】交通量：B/C=2.6~3.3(交通量 ±10%) 事業費：B/C=2.4~2.9(事業費 ±10%) 事業期間：B/C=2.6~2.8(事業期間±20%)</p>					
事業の効果等	<p>①交通混雑の緩和</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業区間と並行する国道312号は、朝夕の通勤帰宅時や観光シーズンには混雑が発生しているが、豊岡道路の整備により交通の転換が図られることで、交通混雑の緩和が期待される。 <p>②交通安全の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業区間と並行する国道312号の死傷事故は、追突が約6割を占めており、特に国府駅前交差点～池上交差点で事故が多く、死傷事故率は県内平均を上回っている。 豊岡道路の整備により、交通転換が図られることで国道312号の事故の減少が期待される。 <p>③災害時等の交通確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 但馬地域を流れる円山川は幾度となく氾濫が起き、市民生活に多大な影響を与えている。 豊岡道路は、比較的標高の高い位置を通過するため、水害への影響は受けにくく、豊岡病院や但馬空港等へのアクセスが確保でき、災害時にも幹線道路としての機能を発揮できる。 <p>④第3次救急医療機関へのアクセス向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 山間部は各消防から救急車で1時間かかる場所もあり、豊岡病院からドクターヘリを運行しているが、ヘリで対応出来ない場合にドクターカーでカバーする独自の救急医療体制を構築している。 北近畿豊岡自動車道全線開通時には、30分圏域人口カバー率が90%→98%に拡大し、救急搬送時の時間短縮が期待される。 					
関係する地方公共団体等の意見	<p>地域から頂いた主な意見等：</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成29年7月に但馬自治会より早期完成の要望を受けている。 平成29年10月に北近畿豊岡自動車道建設促進期成同盟会より早期完成の要望を受けている。 <p>兵庫県知事の意見：</p> <p>一般国道483号北近畿豊岡自動車道（約70km）は、舞鶴若狭自動車道、播但連絡道路及び山陰近畿自動車道と高速道路ネットワークを形成することにより、環日本海地域と関西都市圏の連携・交流を強化するとともに、県内唯一の高速道路空白地域を解消する極めて重要な道路である。</p> <p>また、但馬地域唯一の3次救急医療機関である公立豊岡病院へのアクセス性向上や災害時など緊急時に</p>					

おける輸送路の確保など、医療や防災面においても大きな効果を発揮する道路であり、先の東日本大震災を踏まえ、北近畿豊岡自動車道の早期整備に対する期待は一層高まっている。

こうしたことから、日高豊岡南道路、豊岡道路の早期供用、さらには既に都市計画決定している豊岡IC～豊岡北IC間の早期事業化、豊岡北ICから山陰近畿自動車道との接続を含めた直轄による調査着手をお願いしたい。

事業評価監視委員会の意見

審議の結果、「一般国道483号豊岡道路」の再評価は、当委員会に提出された資料、説明の範囲において、おおむね適切であり、対応方針(原案)のとおり「事業継続」することが妥当と判断される。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

八鹿日高道路が平成29年3月に開通し、並行する国道312号の平均速度が向上。

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成28年度に事業化、平成29年度に用地着手し、用地進捗率約62%、事業進捗率約8%(平成30年3月末時点)

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

現在、用地取得、調査設計を推進し、改良工事・橋梁工事の着手を予定しており、引き続き事業を推進し、早期の開通を目指す。

施設の構造や工法の変更等

事業の実施にあたり、新技術・新工法の活用等によりコスト縮減に努める。

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

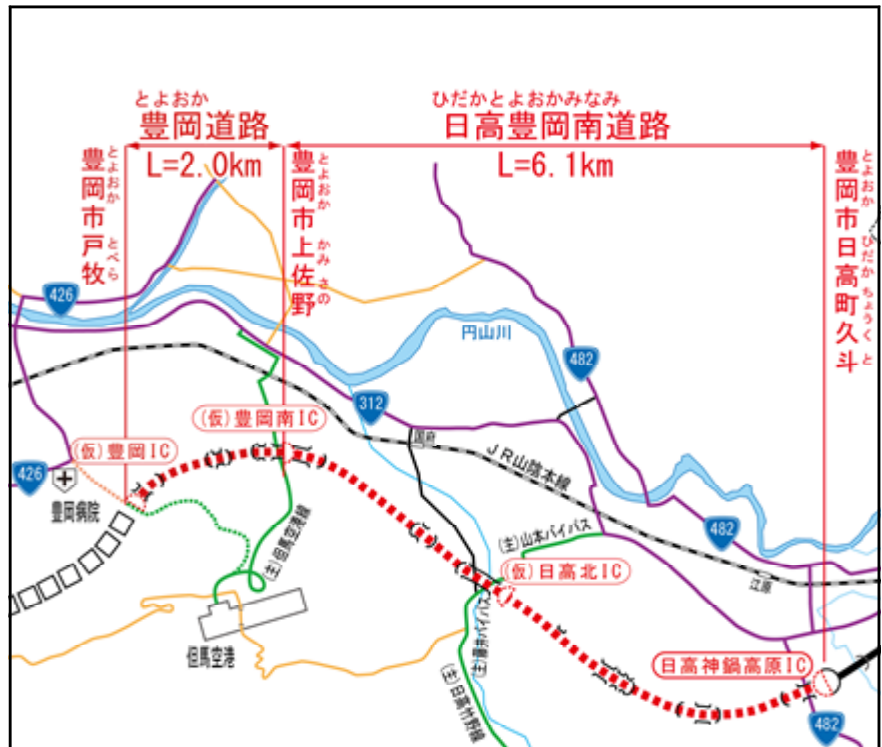
以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図

【位置図】



【概要図】



..... : 事業中
 □□□ : 調査中

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。
 ※総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。
 ※()は、事業化区間のうちIC間の費用対効果分析の結果を示す。